

「元町維新」たなか踏基著

かながわ文庫

横浜・元町に焦点をあて、江戸から明治の激動期、繁栄する街と躍動感あふれる人々の姿を描いた時代小説だ。

著者のたなか踏基さん(69)は埼玉県上尾市在住。昨年から元町周辺を歩いて取材を重ねた。小説には史実に基づく部分も多い。

寒村だった横浜村は、ペリー来航で大きく変貌する。外国人居留地に住居を奪われた住民たちは山すその地に移り、元々の横浜村はここだという思いを込め、「元村」と呼んだ。これが元町の始まりという。

貿易で栄えた横浜で、主人公・川田次郎左衛門は街

町の発展描く時代小説

づくりに奔走した工事現場の親方。たなかさんは、「政治家や実業家など表舞台で活躍した人ではなく、元町の発展を陰で支えた人物を描きたかった」と語る。

(幻冬舎ルネッサンス、税別1600円)

